

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

大山地区の文化財(大山)

今月紹介する大山地区は、昭和30年の市町村合併により、現在の上三川町が誕生するまで、現在の明治地域福祉センターがある場所に明治村の役場が置かれていました。このような大山地区にも多くの文化財が残っています。今月は大山地区を歩いてみましょう。

今月は明治小学校の西側にある五社神社がスタートです。五社神社は、天平19年(747年)に建てられたと伝えられる神社で、

宝治2年(1248年)に多功宗朝が多功城を築いた際に、五社神社を守護神にしたと伝えられています。また、神社本殿の裏には、全長46mと推定される、古墳時代後期の前方後円墳(五社神社古墳)がありま

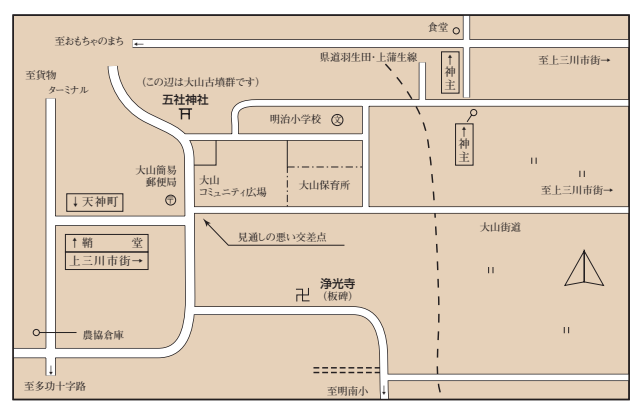
すが、長い年月が経過し、形が大きく変わっています。大山地区をはじめとした田川の西側の台地上には多くの古墳があり、大山地区にも大小40を超える古墳が確認されています。中には、明治30年代に発掘された横穴式石室から直刀・甲冑・鏃が出土した瓢箪塚古墳などもあり、現在でも、多くの古墳を見ることが出来ます。

五社神社の南東、大山保育所の南にある浄光寺は、鎌倉時代の1301年(正安3年)に開かれたお寺で、板碑と薬師如来立像が、町指定文化財になっています。二基

ある板碑のうち一基は1313年(正和2年)に作られたもので、時宗の信者によって建立された供養塔です。高さ183cm、幅41cmの大きさがあり、上三川町で最も大きな板碑です。また、並んで立つ板碑も同時期の1315年(正和4年)に作られたものです。一方、薬師如来立像は室町時代に作られたと推定され、高さ159・5cm、肩幅が30cmあります。台座裏にある墨書の銘文から、文政5年(1822年)に補修されていることがわかっています。

暑さも落ちつき、外での散策がしやすい季節となりましたが、身近にある史跡を歩いて見に行きませんか？

つと上三川の新たな発見があるはず



た報俳句

岡島秀宝 選

草野球飛球の彼方いわし雲 浜野 正男

鶏頭や真赤な嘘はつけません 大八木喜重郎

夕顔や時刻を覚えていたりけり 柳田 石村

新涼や孫の黒髪梳いてやり 蓬田 四方

手のひらに今朝要るだけの茸採る 伊沢 静香

一人旅車窓に秋の色増せり 濱野マス子

鳥威し思ひ出したる忘れ物 阿部 信子

鳳仙花キレル如くに種とばす 野沢 花枝

秋の夜半葉見せ合ふ姉妹 上野キミエ